



プロダクトデザイン研究室 2

Product Design Lab. 2

赤井 愛

AKAI, Ai / Associate Professor

昆虫化粧 人と昆虫の融合美

Insect Makeup: Beauty in Fusion of Human and Insects

「化粧をすること」は人の心に密接に関わっています。頬を赤く塗って血色をよくみせる。長いまつげを付けて目を大きくみせる。それはなりたい自分に近づく為に自分の心を外に描いています。しかしそのなりたい自分になろうとする前に、元来持っている「自分らしさ」の魅力を再認識する必要があります。

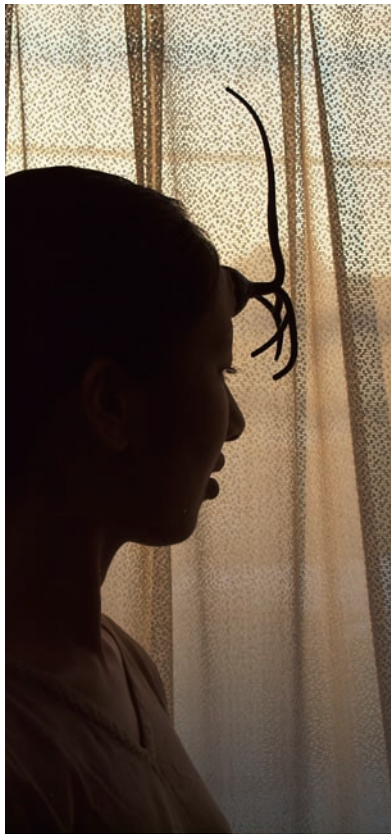
人間のすぐ傍には数多の個性に富んだ昆虫たちの世界があります。厳しい自然界を生き抜く中で弱いものは強いものに擬態をし、鈍感なものは気づきの触覚を生やす。それぞれ己の欠点を独自の形に美しく進化させてきました。

そんな昆虫の触覚や翅といった独自の進化の造形を私たち人間に取り入れることで、自分の内面と向き合い、時に欠点をも美しい個性として表現できるのではと考えました。



秋山 茉莉

AKIYAMA, Mari



視覚障がい児と衣服の関係を少し楽しくするプロダクト

Product for Making Everyday Clothes Fun for Visually Impaired Children



「衣服」は生活に不可欠であり、楽しみを与えてくれますが、視覚的な情報が多く、視覚障がいを持つ子どもたちにとって興味を持ちにくい存在です。一方で保護者は、就学前に一人で着替えができるようになってほしいと考えています。未就学児童の視覚支援施設で約6カ月間に渡って子どもたちの療育補助・観察を行い、自ら衣服を取り出して着脱できること、衣服を能動的に楽しめることを目標に、メロディでコーディネートのお手伝いをする『picotto』と保護者や療育者の工夫をまとめた冊子『ふたば』を制作しました。

picotto：ファッションテイストにあわせて選べる4種類のタグをリーダーにかざすとコーディネートがイメージできるメロディが鳴ります。これらを衣服に取り付けたり、取っ手をつけたりすることで子どもの発達段階に合わせて使用することができます。

ふたば：保護者や療育者がこれまで蓄積してきた子どもの衣服の着脱に関する様々な工夫を集め、わかりやすくまとめました。冊子にすることで情報の共有をしやすいしました。

井上 歌詠

INOUE, Kae



蛇の顎の構造を利用した花瓶

Vase Incorporating the Structure of the Snake Jaw

ネコ科の動物の舌を模倣したサイクロン掃除機やイルカの尾ひれの形状を模倣した洗濯機のパルセータなど、動物の持つ様々な特徴を積極的に取り入れることで、私たちはその生活に変化をもたらしてきた。

動物のもつ特徴的な構造の中から、本作品では蛇の顎の構造に着目した。獲物に合わせて口の開く大きさや形を自在に変形する蛇の顎の魅力を花瓶で表現した。

あくまでも花が主役になるよう、花瓶はアクリル材の積層により透明感を持たせた。可動部分を動かしたり固定したりすることでいける花に合わせ、幅を自由に変形させることができるのがこの花瓶の魅力である。

蛇が大きな獲物を飲み込んだとき、その細い身体を大きく変形させるように、この花瓶は口部分だけでなく全体のフォルムをなめらかに変形させることができる。

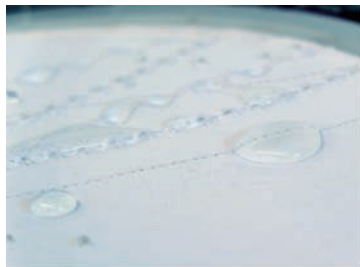


浦崎 幸大
URASAKI, Kota



雨の日が待ち遠しいのは、——水のふるまいを愉しむ——

Why Can't We Wait for Rainy Days?: Enjoying How Raindrops Behave



雨の日にはなんだか憂鬱な気分になることはありませんか。

子どもの頃は水たまりで遊んだり、傘を回して水滴を飛ばしたりと、雨の日ならではの遊び方がありました。しかし大人になると雨とそのような関わりはありません。ましてや外に出ることも億劫にも感じます。

そこで私は大人になってからでも、雨と遊ぶような関わりがあってもいいのではないかと考えました。雨の日が待ち遠しくなるような、雨の水のふるまいを愉しむことができるアイテムを提案します。

フレームには大きさが三種類あり、布や糸が張られています。それからお気に入りを組み合わせて、傘のように手に持って使用します。蜘蛛の巣に雨の雫が絡まったり、水たまりができたり、窓ガラスの上をころころと水滴が流れていったり…そんな雨の日に見られる魅力をヒントにして、フレームの上の水の動きを表現しました。時として同じ動きをしない水の様子を眺め、体感することができます。



大谷 祐佳

OTANI, Yuka

Haneyasume いつでもひとやすみできる服

Haneyasume: Clothes to Take a Rest Anytime

木にとまり、またさっと飛んでゆく。

そんな鳥のように、いつでも軽く腰掛けてひとやすみできる服です。

ちょっと歩き疲れたとき、待ち時間があるときにどうぞ。

鳥の尾羽のような部分に、芯材として発泡ポリプロピレン板をくみあわせた構造体が入っています。ベルトを外し、お尻を押さえて座するような動作で変形させ、軽く腰掛けることができます。

長い尾をもち、世界一美しい鳥とされているケツァールをモチーフとしています。プロダクトをファッションの一部として融合させた提案です。



柴田 暁史

SHIBATA, Akifumi



マーシャルライダードウギ 映像効果を活用した一人ヒーローショー

Martial Rider “Dogi”: One-Man Hero Show Using Video Effect Techniques



「カッコいい。そうなりたい。」と思う僕たちはその憧れを目標とし、模倣することで“綺麗事”を堂々と貫き通す姿勢を学び、自身の成長へと繋げてきた。

その憧れをさらに次世代の子どもたちにも伝えるため、新たなヒーローショーをデザインした。映像効果とレイヤー状スクリーンの組み合わせにより、変身シーンの実演、観客の子どもたちと必殺技を放つなどの2.5次元的な表現を演出している。

ショー本編およびOP映像の他、キャラクターの衣裳、脚本、アクション監督、本番のスーツアクターを全て1人で制作、実演することで一貫した演出をつくり、臨場感のある新しいスタンスのヒーローショーを実現した。

ショー終了後のヒーローとの写真撮影会では観客の子どもたち全員が参加し、ただ見るだけでなく、ヒーローごっこで遊ぶなど、子どもたちの「カッコいい。そうなりたい。」という憧れを生み出し、その後に繋がるヒーローショーを作り上げることができた。



日高 遼

HIDAKA, Ryo

3つの香りに着目した日本酒の愉しみ方

New Ways of Relishing Sake Focusing on the Scent Changes in 3 Stages

近年、女性をターゲットとした風味やパッケージの日本酒が増えてきています。しかしながら同世代の女性にとって、日本酒は酔いやすそう、種類が多くて難しそうなどまだまだ遠い存在のようです。

そこで、少量でも日本酒を愉しめるよう、香りに着目しました。日本酒の香りには感じる段階によって名称がつけられています。お酒の液面から立ち上る香を「上立ち香」、口に含んだ時最初に感じられる香りを「含み香」、飲み込んだ後に鼻から抜ける香りを「戻り香」といいます。これらの香りを愉しむことができる酒器を提案します。

背の低い器は、鼻を近づけて上立ち香を、背の高い器は、ゆっくり傾けて口に流し込み、含み香と戻り香を感じられるような形状にしました。また、日本酒の知識の有無を問わず、器の色や形、栓の木目などの好みで選べます。お気に入りの器をコードから外し、じんわりと明かりが消えたら栓をきゅぽんと抜いて3つの香りを愉しんでください。



前田 菜穂

MAEDA, Naho

